



先週
の
ドル
円

Source: CQG, Inc. © 2006 All rights reserved worldwide.

先週
の
相場
概況

12日

米中貿易摩擦長期化への警戒感や香港のデモを巡る懸念からリスク回避の動きが先行。ドル円は一時105.05円まで値を下げたが、厚めの買い注文やオプションが観測されている105.00円が意識されると下げ止まった。

13日

ドル円は欧州時間に一時105.07円まで下落する場面があったものの、NY勢の参入後は一転して買い戻しが優位に。米通商代表部(USTR)が9月1日に発動する対中制裁関税「第4弾」について、一部製品への適用を12月15日まで延期すると発表すると、米中貿易戦争に対する過度な懸念が後退。株価の大幅高とともに106.98円まで反発した。

14日

米英債券市場で10年債利回りが2年債利回りを下回り、リセッション(景気後退)の前兆とされる「逆イールド」が発生。景気後退への懸念が急速に高まるなか、ドル円でもリスク回避の売りが優勢となり、一時105.66円まで値を下げた。

15日

ドル円はアジア時間の終盤にまとまった買いが入ると、目先のストップロス注文を巻き込んで一時106.78円まで急伸。その後も米中貿易摩擦への懸念や強い米経済指標などを手掛かりに上下する荒い値動きが目立った。

16日

ドル円は米長期金利の上昇や株高を支えにした買いが入り、一時106.49円まで上昇する場面も見られた。

総括

先週のドル円は下値の堅い動き。週明け12日には105.05円まで下げる場面があったものの、節目の105.00円が目先のサポートとして意識されると買い戻しが優勢に。13日には対中制裁関税「第4弾」の一部製品に対する適用が延期されるとの報道を手掛かりに106.98円まで反発した。翌14日には米2年、10年債利回りでリセッションの前兆とされる「逆イールド」が発生した影響で105.66円まで失速したが、その後は再び下げ止まり。15日には急な変動を伴う荒い値動きが目立ったものの、週末まで総じて底堅く推移した。

先週の注目された経済指標結果

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値	結果
13日	18:00	火	DEM	ZEW景況感調査	*	8月	-24.5		-28.5	-44.1
13日	21:30	火	USD	CPI	前月比	7月	0.1%		0.3%	0.3%
14日	08:50	水	JPY	機械受注	前月比	6月	-7.8%		-1.3%	13.9%
15日	10:30	木	AUD	新規雇用者数	*	7月	0.05万人	-0.23万人	1.40万人	4.11万人
15日	21:30	木	USD	小売売上高	前月比	7月	0.4%	0.3%	0.3%	0.7%
15日	22:15	木	USD	鉱工業生産	前月比	7月	0.0%	0.2%	0.1%	-0.2%
16日	21:30	金	USD	住宅着工件数	年率換算	7月	125.3万件	124.1万件	125.7万件	119.1万件

一言コメント・・・米国やドイツなどの長期金利が低下し投資家のリスク回避姿勢が鮮明となり、株安・円高・債券高が進みました。週後半には米小売売上高が予想より良好だったことなどで株安や金利低下が一服しました。

先週の注目された要人発言

13日08:19 ケントRBA総裁補佐「豪ドル安は依然として経済の刺激になっている」「慣例にとられない金融政策は可能」「マイナス金利が必要となる可能性は低い」
 14日01:09 トランプ米大統領「中国との通商合意に対して楽観的」「中国との閣僚級の電話協議はとて生産的だった」
 15日00:52 トランプ米大統領「FRBは迅速に行動するべき」「米国の問題は中国ではなくFRB」「FRBの利上げは早かったが利下げは遅すぎた」「逆イールドは狂っている」
 15日18:11 中国財務省「米国は新たな10%の関税によって米中首脳による合意を破った」
 15日22:47 レーン・フィンランド銀行(中央銀行)総裁「9月に大規模緩和を実施する必要がある」
 16日04:10 ブラード米セントルイス連銀総裁「マーケットやデータに注意を払っている」「世界経済は減速のさなかにある」「市場の下振れは一部行き過ぎの可能性」
 16日06:28 トランプ米大統領「中国との貿易戦争、かなりの短期で済む見通し」「中国が追加関税に対して報復するとは思わない」「9月の米中協議は依然として有効」
 16日06:41 カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁「更なる利下げに傾いている」「危険な兆候と、楽観できる兆候が現れている」
 16日07:03 オアRBNZ総裁「国内外の低インフレ予想が利下げの主要因」
 16日23:31 シュルツ独財務相「EU27カ国は団結しており、あらゆるブレグジットシナリオを想定」
 17日02:23 カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁「リセッションは基本的見通しではないがリスクはかなり上昇した」「我々には利下げの必要がある可能性」

一言コメント・・・週前半、米中両サイドの要人発言により米中貿易摩擦への懸念が高まり株式相場の重しとなりました。ただ、世界的な株安・債券高が続くと両サイド要人の発言がトーンダウン。景気減速への過度な警戒感の後退し、株価の反発と債券安を誘いました。

今週の経済指標

日付	時刻	曜	通貨	指標名	比	月	前回値	改定値	予想値
19日	18:00	月	EUR	HICP改定値	前年比	7月	1.1%		1.1%
21日	17:00	水	ZAR	CPI	前月比	7月	0.4%		0.7%
21日	23:00	水	USD	中古住宅販売件数	年率換算	7月	527万件		540万件
21日	27:00	水	USD	FOMC議事要旨	*	*	*	*	*
22日	23:00	木	USD	景気先行指標	前月比	7月	-0.3%		0.2%
23日	23:00	金	USD	パウエルFRB議長講演	*	*	*	*	*
23日	23:00	金	USD	新築住宅販売件数	年率換算	7月	64.6万件		64.5万件

今週の注目は・・・FRB議長講演

週刊マーケットアナリシス 会員専用版レポート

会員サイトログイン後のページで
ご確認ください

- 今週のドル円相場見通し
- 今週のGI24コメンテーターの一言
 - 荻野金男
 - 和田仁志
- 今週の注目経済指標
- 今週のテクニカルポイント
- 先週のコメント
 - 今井雅人
 - 越後屋の小言

情報提供元：株式会社DZHフィナンシャルリサーチ

株式会社DZHフィナンシャルリサーチより提供している情報（以下「情報」といいます。）は、情報提供を目的とするものであり、特定通貨の売買や、投資判断ならびに外国為替証拠金取引その他金融商品の投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はあくまでお客様ご自身の判断と責任において行ってください。また、予告なしに内容を変更することがありますのでご注意ください。商用目的で情報の内容を第三者へ提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容によって生じた如何なる損害についても、（株）DZHフィナンシャルリサーチは一切の責任を負いません。